

【大豆】紫斑病・カメムシ防除と開花期

令和7年8月

大分県東部振興局 生産流通部 集落営農・水田畑地化班

大豆紫斑病とは

- ・カビによって引き起こされる病気
- ・種子伝染や植物残渣から感染することが多い
- ・発病すると、葉、莢、種子に症状が発生する（写真①②）
- ・結実期に雨が続き、24～30℃程度で多発する傾向がある。
- ・子実への感染は、幼莢期～子実肥大期に感染しやすい。
- ・対策：種子更新、種子消毒、適期防除、輪作 など



写真①



写真②

大豆にもカメムシ！？

大豆が登熟する途中に、子実を吸汁する。

【被害】

- 子実が小さい時期に吸汁
：莢落下や種皮だけ残る
- 子実が大きい時期に吸汁
：黒い斑点、子実の変形

被害が大きいと・・・

いつまでも株が黄化せず、青立ち状態になる。



【ミナミアオカメムシ】

左：幼虫 右：成虫

紫斑病・カメムシ防除のポイント

紫斑病防除とカメムシ防除の適期は重なるため、
殺虫剤と殺菌剤の混合散布による **同時防除が可能**

1.大豆の開花期の見極め

圃場全体のうち、
4～5割の株が開花を始めた時期

※1株のうち、ひと花でも咲けば「開花」とする



2.散布回数・時期

💡 子実に感染しやすい **幼莢期** に防除を実施すること

💡 散布は必ず **2回** 実施すること

開花期を確認後、以下日数で散布をすること

【散布時期】

○1回目：**開花期後** 12～24日（**幼莢期**）

○2回目：1回目散布の10日後

3.散布薬剤

～～～～ 推 奨 薬 剤 ～～～～

【1回目】

殺菌剤：アミスター20フロアブル
殺虫剤：スタークル液剤10

【2回目】

殺菌剤：ニマイバー水和剤※1
殺虫剤：キラップフロアブル

※注意点※

ニマイバー水和剤は、

- ・エトフェンプロックス乳剤（商品名：トレボン乳剤等）
- ・ダイアジノン乳剤

と混用した場合、凝固物を生成する。以上薬剤は混用しないこと。